

新年ご挨拶

一般社団法人全国木材組合連合会

会長 鈴木 和 雄



新年おめでとうございます。旧年中は、皆様方には本会の運営に格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、去年は、「新たな森林管理システム」と「森林環境譲与税の配分」がともにスタートした記念すべき年でした。

「意欲と能力のある林業経営者等」を主体とする森林管理システムが着実に普及・定着するとともに、日本の森林を守る上で極めて重要な課題である国産材需要が拡大することにより更なる飛躍の年となることを期待しています。

特に、我々木材産業関係者にとっては、森林環境譲与税の使途に木材利用促進が位置付けられ、これまであまり木材が使われてこなかった都市部等での木材利用拡大への絶好のチャンスが巡ってきているものと考えており、積極的な需要拡大に組織を挙げて取り組むべき時と決意を新たにしているところです。

元々、森林資源は唯一の再生可能な循環資源であり、適時適切に伐って使って植えることが森林の活力を生かすことに繋がることは国民共通の認識となっています。

中高層ビルに木材を使うことで、大都市がCO₂を固定する環境都市に生まれ変わり、林業が成長産業化することで雇用の拡大が図られ、地方創生に資することにより、結果として森林資源もさらに充実して国土強靱化にもつながっていきます。

東京都の小池知事が提唱し、全国知事会に創設された「国産木材利用促進PT」や経団連・経済同友会が相次いで公表した提言には、都市が木材利用の促進に取り組むことで地方を支援していくという新しい枠組みが取り上げられており、行政や企業の木材利用に対する認識が着実

に高まっています。

一方、こうした動きを支える技術の進化も進んでいます。

すでに大臣認定を受けた木質3時間耐火部材も開発済みであり、木造での超高層ビル実現も夢ではありません。

現実に昨年11階、9階、7階建てといった中高層ビルの木造化の計画が発表されており、2～3年のうちには完成する予定となっております。都市の木造化の動きが急速に広まっています。

オリンピック・パラリンピック関連施設をはじめ、都会で新しく建設される建物には木材が多く使われてきていますが、設計や施工に携わった方々からは、デザイン面や環境面だけでなく、経済面でのメリットについても木材の可能性を高く評価する声が多く聞かれ、環境に優しい木造や木質化された建物をまず検討することが「当たり前」になる時代がまさに到来しつつあると考えています。

戦後長く続いてきた「木材は耐火性や耐震性等から都市では使えない。」という考え方を180度転換し、都市木造化推進へ向けた国民的な動きを構築していくチャンスが来ていると確信します。

今年は十二支の始まりのねずみ年です。こうした森林・林業・木材産業に吹く追い風をつかみ、本年を「ウッドファースト社会の実現に向けた転換点」とすべく、全森連を始めとして広く林業関係団体や建築・建設関係の団体・企業とも力を合わせて、全木連の総力を挙げて取り組んでいきたいと考えております。

皆様方のご支援、ご協力を是非お願い申し上げます。

本年が森林・林業・木材産業並びに皆様方にとって、素晴らしい一年となりますことをご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。